

じいじと海



美川漁港から少し離れた浜辺、解体され大型トラックにのせられた船を見つめている祖父と祖母がいました。なんとなく寂しそうな二人にみえました。

私の住んでいる所は窓をあけると、そびえたつ白山が見え、そこから流れ出した水が日本海にそそいでいます。とても景色がよく山、川、海の恩恵をたくさん受けています。

祖父は単身赴任で全国をまわり、定年になり小型船舶免許をとって故郷に帰って来ました。船は危ないからと反対する祖母に「これは男のロマンだ」といい船を買い漁師になりました。おだやかな日には朝早くに私達を起こさないようにそとと漁に出かけて行きました。

私は、この船がとってきたおいしいお魚をいっぱい食べて大きくなりました。皆からも喜ばれ「船長、船長」と呼ばれご機嫌な祖父で、祖母はちよつと恥ずかしそうでした。魚の大好きな人たちが集まって来て、友達もたくさん出来、毎日を楽しくすごしていました。

ある日の朝の4時半 新月で真っ暗でした。相棒と二人であみを入れに行った帰り、船の底をテトラポットにぶつけてしまいました。「ドーン」とした音とともに船は大きく揺れ、握っていたハンドルに顔をぶつけ、飛ばされました。「一瞬気を失ったのかなあ。」

相棒は海へ落ち船から下がっているロープに捕まっていたのを祖父が引きずりあげたそうです。

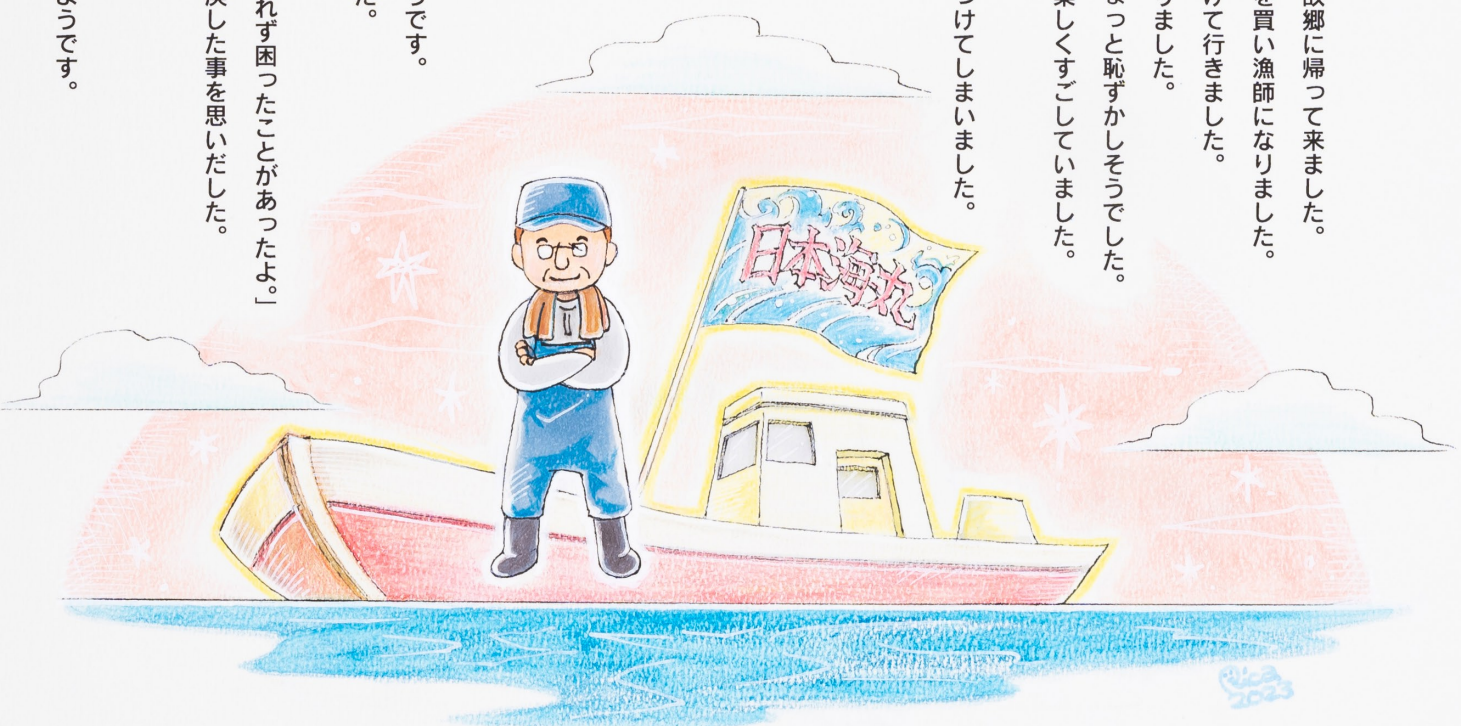
「ふだんはこんなロープくらい簡単に登れるのに。」
二人の命が大丈夫だと知り、一番に頭に浮かんだ事は海を汚さないこと
壊れかけた船がら油がながれでないようにすることでした。

テトラポット沿いに船を走らせその切れ目から砂浜につっこみ船が流れないようにテトラポットにロープで止め海からあがったそうです。大変なことになったと家へ電話し救急車で病院に運ばれ入院しました。

以前に祖母から聞いたことがある。
「外国のタンカーが座礁して重油が流れ出し、魚はべたべた、食べられず困ったことがあったよ。」
浜に打ち上げられた重油を町民皆で回収することで元の砂浜を取り戻した事を思い出した。

思い切りのよい祖父は漁をする用具、それを入れてある浜小屋など全部きれいに処分してしまいました。
祖母は、祖父に内緒で日本海丸と書かれた旗をそとと取っておいたようです。
「日本海丸、長い間ありがとつ。さよつならび。」

80歳近いじいじ達、まだ何かしたそうです。
今度は何をするのかな。応援するよ!!



白山市立美川中学校 一年

荒屋 知咲登

絵 原田リカ